

平成 29 年日本熱物性学会第 3 回 (2017-3) 役員会議事録 (案)

日時：平成 29 年 9 月 9 日(土) 役員会 14:00～15:39

場所：東京工業大学田町キャンパス キャンパスイノベーションセンター 5 階 501

出席者：(五十音順・敬称略)

大久保英敏(玉川大学)	大村高弘 (和歌山高専)
小澤俊平(千葉工業大学)	小原拓(東北大学)
仮屋圭史 (佐賀大学)	高野孝義(豊田工業大学)
竹歳尚之 (産総研)	長坂雄次(慶應義塾大学)
日野裕久(パナソニック)	牧野俊郎(近畿職業能力開発大学校)
宮崎康次(九州工業大学)	桃木悟(長崎大学)
森川淳子(東京工業大学)	山下雄一郎(産総研)
山田盛二(サンタペーキングラボラトリー)	山田修史(産総研)
山田純(芝浦工業大学)	山田雅彦(北海道大学)

審議事項：

山田純会長より挨拶があり、配布資料（別添含む）の確認が行われた。

議 題：

(1) 前回議事録確認……………資料番号:17-4-1

小澤評議員より、資料 17-4-1 に基づき前回議事録の確認があり、以下を修正の上、了承された。

議題(1) 前回議事録確認

「資料 17-2-1-役」を、「資料 17-2-1」に修正

議題(5) 研究分科会報告

「資料番号：16-2-6」を、「資料番号：17-2-5(1)～(4)」に修正

「断熱材の熱物性計測と評価研究文科会」を、「断熱材の熱物性計測と評価研究分科会」に修正

議題(6) 事務局報告

「日本熱化学研究支援機構」を、「日本熱科学研究支援機構」に修正

(2) 第 38 回日本熱物性シンポジウム準備状況……………資料番号:17-4-2

竹歳尚之第 38 回シンポジウム担当より、シンポジウムの準備状況について報告がなされた。

申込み数 129 件の内、92%の原稿が投稿済みであること、座長を決定し暫定プログラムに反映した旨の報告があった。今後のスケジュールとして、9/23 が事前参加申込期限であり、10/24 に論文を公開予定であることが説明された。また、シンポジウムの初日終了後は混雑が予想されることから、つくば駅までのバスを、二日目は懇親会会場までのバスを準備する予定であることが説明された。産総研の食堂利用に関して、混雑を避けるために参加者にはデポジット式のプリペイドカード（1500 円）を事前購入してもらう予定であり、残金は受付で払い戻し可能であることが説明された。

(3) 総会に関する事項……………資料番号:17-4-3-1~3

・ 平成 29 年学会賞候補者・名誉員顕彰者

長坂雄次表彰委員会委員長より、資料 17-4-3-1 に基づき、平成 29 年学会賞候補者、名誉員顕彰者の候補者について説明があった。今年度は熱物性賞の推薦はなかった。平成 29 年論文賞 2 件、奨励賞 2 名、功労賞 1 名、貢献賞 1 名、名誉員 2 名の候補について報告があり、これについて了承した。

・ 第 39 期役員候補者について

山田純会長より、資料 17-4-3-2 に基づき、第 39 期評議員候補者が提示された。来年度のシンポジウムが東海地区で開催されることから、評議員が 1 名増の 2 名となった。続いて、次期会長として上利泰幸先生（大阪産業技術研究所）が、副会長として東之弘先生（九大カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所）が、監事として熊野寛之先生（青学）が候補者として提案され了承された。

また各種委員会に関して、次年度の広報委員会委員長が宮崎康次先生（九工大）から元祐昌廣先生（東京理科大）に、規約等整備担当が牧野俊郎先生（近畿職業能力開発大）から、山田純先生（芝工大）に交代するが報告された。また、次期の議事録担当として関東地区評議員の遠藤理恵先生（東工大）に依頼することとなった。

・ 総会資料と進め方

森川淳子事務局担当副会長より、資料 17-4-3-3 に基づき、第 38 回シンポジウム期間中に開催される総会の資料案および進行表案が提示され、以下を修正の後に了承された。

- ・ 7. 各種委員会活動「日本熱物性シンポジウム講演論文集の Web 公開に向けた準備」を、「日本熱物性シンポジウム講演論文集の Web 公開」に修正
- ・ 7. 他学協会との協賛・後援・共済事業の番号が重複しているのを修正
- ・ 「日本物性シンポジウム収支決算書」と、「第 11 回アジア熱物性会議収支決算書」を第 2 号議案に移動。
- ・ 表彰 5. 【日本熱物性学会 名誉員】を受賞された小野晃先生の略歴から、富山大学に関する 3 つを削除する
- ・ 表彰 3. 【日本熱物性学会 功労賞】を受賞された馬場哲也先生の略歴と対象業績の間に空欄を挿入する。
- ・ 表彰の各受賞者の所属を略さずに正式名称で記載する。

また、第 37 回「日本熱物性シンポジウム収支決算書」と、「第 11 回アジア熱物性会議収支決算書」の両方の収支欄に「学会からの交付金」の記載があるが、熱物性シンポジウムに対する交付金は学会への払戻しが不要であるのに対し、アジア熱物性会議に対する交付金は準備金としての貸し付けであることから、学会に対する払戻しが必要である事が確認された。また、第 2 号議案 日本熱物性学会第 37 期収支決算書において、収入と支出の決算が予算を大きく超えているのは、シンポジウムおよび ATPC 実行委員会からの寄付および払戻金が多く、それを特別会計に組み入れたためであることが説明された。

(4) 第 39 回日本熱物性シンポジウム準備状況……………資料番号:17-4-4

長野方星第 39 回日本熱物性シンポジウム実行委員長の代理として、高野孝義委員(豊田工大)より、準

備状況について報告があった。ウイנק愛知の賃料が高額のため、総会、特別講演、懇親会を同施設に隣接のホテル(キャッスルプラザ)で行う事を検討中であること、実行委員として東海地区以外から数名の参画をお願いする予定であることが説明された。なお、40周年記念事業は、第40回、第41回シンポジウムで行う事となったため、39回シンポジウムでは行わないこととなった。

(5) 第40回日本熱物性シンポジウムについて

山田純会長より、桃木悟先生(長崎大)が中心となって、長崎で開催される事が説明された。長崎ブリックホールで、水曜日～金曜日の日程で開催することを検討中であるが、同施設には三部屋しかないのに対応を検討する予定であることが説明された。

(6) 各種委員会報告……………資料番号:17-4-5-1~4

・ 編集委員会

大久保英敏編集担当理事より、資料17-4-5-1に基づいて、活動報告があった。11月号の目次案が提示され、巻頭言は堀部明彦先生が執筆予定であること、論文1件の掲載が決定していること、国際会議参加についての報告記事を予定していることが説明された。また、今後も継続して記事を募集する予定であることが報告された。また馬場哲也先生の連載記事は継続中であるが、毎月の定期掲載ではないため、11月号への掲載は未定であることが説明された。

表彰委員会

資料17-4-5-2の通りである。

・ 熱物性値サービス委員会

山田修史熱物性情報担当より、資料17-4-5-3に基づいて、活動報告があった。1/1～8/31の熱物性学会DBサーバーに対するアクセス数の月平均は6476件で、増加傾向にあることが報告された。また、後援論文集リポジトリへ37回熱物性シンポジウム講演論文集のデータを追加したことが報告された。また第32回の講演論文集データは、最初の1ページのみが掲載されているが、今後全3ページへの差し替えを行う予定であることが説明された。

・ 広報委員会

宮崎康次広報担当より、資料17-4-5-4に基づいて活動報告があった。HPの整備、メーリングリストの運用についての活動報告がなされた。

・ 活動委員会

桃木企画担当より、資料17-4-5-5に基づいて活動報告があった。BPAに関して、例年通りに行う報告があった。審査について積極的に協力して欲しい旨の依頼があった。

(7) 研究分科会報告……………資料番号:16-4-7-1~3

・ ふく射性質とその放射制御に関する研究会

代理として宮崎広報担当より、8/26～27 にセミナーを開催したこと、東北大のメンバーが新しく参加したことが報告された。

・ 断熱材分科会

代理として大村副会長より、活動報告と今後の予定に関する説明があった。4/21 に阿子島先生をお願いして研究会を開催したこと、9/14 に明星工業（株）の下野先生に講師を依頼して、次回研究会を開催予定であることが説明された。

(8) 事務局報告……………資料番号:17-4-7-1~2

森川事務局担当副会長より、資料 17-4-7-1~2 に基づいて、協賛関係、会員異動について報告がなされた。今後の会員増について検討する

(9) その他

40周年記念事業は、2019年～2020年（第40回、第41回シンポジウム）にかけて行うこととなった。

以上